第６学年　音楽科学習指導案

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　日　時　 　６月 ３日（木）　５校時

児　童　 　６年　　１４名

指導者　　鈴木　　千昌

**１　　題　　　　材**　　　『音楽でつなごう』　　　～伝えたい　にっぽんのうた～

**２　 題材の目標**

1. 歌い継がれてきた「日本の歌」の言葉や旋律にふれ，その曲の表す情景や当時の人々のくら

し，思いを想像し，親しみをもって聴いたり歌ったりする。

（２）　　歌詞の内容や曲の特徴を捉え，その曲のよさが伝わるよう，思いや意図をもって表現する。

（３）　 仲間とともに音楽を味わったり表現したりする喜びを感じるとともに，より多くの人たちに，日本の歌のよさを伝えていこうとする。

**３　　題材について**

1. 児童の実態

本学級の児童は，いつも穏やかで心優しく，集団としての調和を重んじ，周囲の様子を見ながら考えて行動できることが多い。何事にもこつこつと前向きに取り組むとともに，話し合って課題を解決することもできている。

ただ，慎重で控えめな児童が多いため，感じたり考えたりしたことを，瞬発的に，のびのびと表現することは, まだ十分にはできておらず，表現の技能と表現しようとする意欲をもっと育てていきたいと常々感じているところである。

　 また，児童それぞれの自宅が，広大な校区に点在しているという地理的な条件と，子どもたちの興味・関心事や生活様式の変化から，帰宅後や休日には，タブレットやゲーム機で，動画や音楽，通信ゲーム等を楽しんでいる児童が多い。そのようななかで，目新しいものや刺激の強いものにふれ，おもしろいと感じることはあっても，家族で同じテレビ番組を見て感動を共有したり，年齢層の違う者同士が，同じ歌謡曲を一緒に歌ったりする機会は減ってきているようである。

本校区は，豊かな自然に恵まれ，三世代以上の同居家庭も多い地域であるが，人々の暮らし方の変化から，自然や季節を味わう童謡や家族の愛情を深める子守歌，手遊び歌などが伝承されにくくなってきている。児童へのアンケートでは，多くの童謡や唱歌を知っている者とそうでない者との差が大きく出た。

　多くの流行歌は，児童が自ら求めて聴いたり歌ったりできる時代になっている。しかし，学校で歌わなければ，伝えていくことが難しくなった童謡や唱歌については，特に意識を持って，子どもたちに出会いの機会を作っていく必要があると強く感じている。

1. 教材について

鑑賞・表現教材　　「おぼろ月夜」

本題材では，曲の音楽的特徴や，曲想を形作っている要素をつかみ，そのよさが表れるよう，目的や意図をもって表現しようとすることをねらいとしている。二人で多くの名曲を生み出した，作詞家の高野辰之と作曲家の岡野貞一について調べ，二人の作った他の楽曲について知ることで，二人の思いや，表したかった世界を想像しながら，気持ちをこめて歌えるようにしたい。教科書の挿絵や画像・映像教材なども効果的に使いながら，児童がイメージを膨らませやすいよう配慮したい。

「おぼろ月夜」は，歌詞に使われている言葉の響きも大変美しく，時代を超えてなお，みずみずしく優しく語りかけてくれるような歌である。このような歌にふれることにより，日本語の美しさや，日本人の四季を愛する感性の素晴らしさにも気づき，日常の風景を，より鮮やかに愛おしく感じられるようになればと願う。

このような郷愁を誘う音楽の本当の素晴らしさを感じるのは，もっと大人になってからかもしれないが，そのような時に，ふと，思い出して懐かしさや温かさを感じられる歌を知っておくことは，一人一人にとって大切な心の支えとなるであろうし，そういう意味で，未来の自分への贈り物として歌ってほしいと思っている。

これまで受け継がれてきた童謡や唱歌には，子どもから高齢者まで，みんなが口ずさめるというよさもある。このような歌を伝承していくことは，人々の暮らしや文化を伝えていくことでもある。

自然や命を大切にし，人のぬくもりを次の世代につなげていける児童を育てていきたい。

　 （３）　指導にあたって

　　　　今年度最初の授業で，「音楽は，心を解放し，みんなでいっしょに楽しむもの。つくっていくもの。こうじゃないといけないとか，これは間違いとかいうものはない。だから，音楽が好きな人もそうでない人も，全員でとにかく参加をしよう。みんなが心地よく，一人一人のよさを出し合って学習できる時間にしていこう。」と呼びかけた。

　　　　また，なるべく児童が主体的に学習を進めていけるよう，目的意識をもって取り組ませたいと考えている。

　今回の題材では，「おすすめの一曲」と題し，自分のお気に入りの童謡をかいたカードを作成し，それを校内に掲示したり，給食時の放送で紹介したりしたいと考えている。また，全員で歌っている様子を動画に撮るなどして，下学年の児童に，日本の歌のよさや自分たちが共有した思いを伝えたいとも思っている。そのことが，児童の学ぶ動機付けとなり，より主体的に取り組むことにつながればと願っている。

　題材名の頭につく『音楽でつなごう』は，年間を通じての大きなテーマである。そのなかの，一つが，～伝えたい　にっぽんのうた～であり，歌を通じて，日本の文化や人々の営み，思いをつなげていってほしいとの思いから設定した。今回取り上げる「おぼろ月夜」のほかにも，「われは海の子」や「ふるさと」を，本単元の核となる教材として扱っていく。それと並行して，また，関連付けながら，年間を通じて，なるべく多くの童謡・季節の歌等に出会わせていきたい。

　また，『音楽でつなごう』には，音楽をともに楽しむことを通して，仲間や家族，地域とのつながりを深めていくことや，夢や目標に向かって一人一人が力強く進んでいくことをねらいとする単元も設定する予定である。

　他教科とも関連付けながら，統合前の旧の各小学校で歌われていた校歌や，それぞれの地域に

残る伝統音楽にも何らかの形で触れていけたらと構想中である。

**４　　題材の評価規準**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 1. 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。 2. 思いや意図に合った表現をするために，呼吸や発音の仕方に気をつけ，自然で無理のない歌い方で歌っている。 | 1. 曲の特徴をつかみ，それを表現するために，声の出し方やリズム，強弱，速度等を工夫している。 2. 作詞者，作曲者の表したかった世界を想像し，グループで話し合い，自分たちなりのイメージをもって歌おうとしている。 | 1. 曲のよさを感じ，表現を工夫することに意欲を持って，楽しみながら，主体的，協働的に取り組んでいる。 |

**５　　指導と評価の計画**

（四～六月）

（六～七月）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 次 | 教材 | ◯学習内容 | ◇評価規準　◆評価方法 | 要素 |
| 第一  次 | 春のうた  童謡・唱歌  ほか  おぼろ月夜  本時 ３／５ | ○自然や人々のくらし等をテーマに，古くから歌い継がれてきた数々の「にっぽんのうた」があることを知り，曲想を感じ取りながら歌う。  ○曲の特徴を捉え，そのよさを表現するための工夫について考え，表現する。  ○仲間とともに音楽を味わったり表現したりすることを楽しみ、より多くの人たちに，にっぽんのうたのよさを伝える。 | ◇知識・技能  ◆活動の観察  　ワークシート    ◇思考・判断・表現  ◆発言内容  　ワークシート  ◇主体的に学習に取り組む態度  ◆活動の観察 | 音色  リズム  強弱  速度  旋律  反復  変化 |
| 第二  次 | 夏のうた  童謡・唱歌  われは海の子  ほか |
| 第三  次  （十～十二月） | 秋のうた  ふるさとのうた  童謡・唱歌  荒城の月  箱根八里  ふるさと  ほか |
|  | 冬のうた  春のうた |

**６　　本時の学習**

（１）　目標　　作り手の思いや表現したかった世界を想像し，聴く人によさが伝わるよう，気持ちをこ

めて歌う。

（２）　展開

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 学習活動 | 指導上の留意点 | ◇評価規準　　◆評価方法 | 要素 |
| １　既習曲を歌う。  ２　本時のめあてをつかむ。  作り手の思いや表現したかった世界を想像し，聴く人によさが伝わ  るよう，気持ちをこめて歌おう。  ３　グループごとに表現の工夫について話し合い，練習する。  ４　互いに聴き合い，それぞれの表現のよさに気づく。    ５　本時のまとめをする。 | ◯のびのびと学習できる雰囲気を作る。  ◯前時までの学習を振り返り，本時のめあてを確認する。  ◯これまでに見つけた表現の工夫の仕方を思い起こさせ，生かせるようにする。  ◯グループのめざす目標に照らしながら，よさに気づけるよう声をかけて意識を向けさせる。  ◯自分や友達のよさ，表現の工夫を生かし，周囲の人たちに伝えていこうとする意欲をもてるようにする。 | ◇思・判・表  ◆活動の様子，発言内容 | 音色  旋律 |

（３）　評価および指導（手立て）

|  |  |
| --- | --- |
| 「十分満足できる」と判断される具体的な状況 | ・作り手の思いや表現したかった世界を想像し，聴く人に伝わるよう，思いや意図を持って歌い方を進んで工夫している。 |
| 「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導（手立て） | ・同じ作り手の作品や，表現の工夫の仕方の例を挙げることで，表現を工夫する際の手がかりになるようにする。 |